

平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■ 自主研究 17	公益目的事業 19
主査名	大森宣暁 ・ 宇都宮大学大学院工学研究科球環境デザイン学専攻 教授	
研究テーマ	夜の生活活動を支える都市と交通のあり方に関する研究	
研究の目的： 24 時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の 4 要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが求められるものと考えられる。しかし、従来の都市・交通計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人が安全・安心・快適に、夜間の自宅内外の生活活動に参加できる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。 研究の経過（4 月～9 月）： 計 2 回の研究会を開催し、ソーシャルネットワークと余暇活動との関係性、ジャーナル“Urban Studies”の特集“Geographies of the urban night”の論文レビュー、首都圏在住 20～40 代の有職者に対して実施した余暇活動に関するアンケート調査データの分析、“night mayor”等について議論を行った。また、土木計画学研究発表会において「復活！夜の都市計画」スペシャルセッションを企画し、主に夜間の人々の余暇活動に着目して、横丁の形成過程と特徴等についての議論を行った。 下期へ向けて（課題等）： 若者有職者の余暇活動に関するデータの分析を進めるとともに、大都市および地方都市に立地する複数の大学の学生を対象として余暇活動に関するアンケート調査を実施し、都市別の違いおよび有職者と学生の比較を行う。また、北関東主要都市への業務目的日帰り・宿泊来訪者に対するアンケート調査を実施し、業務時間以外の活動および消費行動の実態と意識に関する分析を行う予定である。 研究メンバー（敬称略）： 大森宣暁（主査・宇都宮大学） 原田昇（東京大学） 張峻屹（広島大学） 古谷知之（慶應義塾大学） 谷口綾子（筑波大学） 高見淳史（東京大学） ジアンカルロス トロンコソ パラディ（東京大学）		